

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)
陳 璟
2. 研究または活動のテーマ(課題名)
日本画における女性の自己表象についての考察 -女性日本画家の自画像を巡って-
3. 助成額
85,000 円
4. 実施期間
2020 年 7 月 ~ 2021 年 6 月
5. 実施状況
2020 年 7 月上旬 伊藤小坡《夏》と梶原緋佐子《静閑》の作品実見調査 京都市立美術館『コレクションルーム 夏期』
2020 年 7 月下旬 論文の提出(芸術学研究会『芸術学論集』)
2020 年 8 月上旬 筑波大学 芸術学特別演習ⅡAに「女性画家の自己表象についての考察-伊藤小坡の《製作の前》と《夏》を中心に-」を口頭発表(成果物①)
2020 年 8 月中旬 zoom で三重県の伊藤小坡美術館の顧問である山口泰弘にインタビューを行った
2020 年 10 月 島成園《自画像》と《無題》の作品実見調査 大阪市立美術館『コレクション展 没後 50 年 浪花の女性画家 島成園』(予定は 2020 年 4 月 11 日から 5 月 10 日が、会期が変更された。)
2020 年 12 月 論文「日本画における女性の自己表象についての考察-女性日本画家の自画像からみるフェミニズムの受容」の採用が決定、2021 年 12 月に出版予定(成果物②、③)
2021 年 1 月 梶原緋佐子の作品群を考察 京都市立美術館『コレクションルーム冬期』
2021 年 2 月 筑波大学 芸術学特別演習ⅡBに「女性日本画家の自己表象についての考察-女性日本画家が描いた歴史画を中心に-」を口頭発表(成果物④)
2021 年 3 月 三重県にある伊藤小坡美術館で、伊藤小坡の作品群の実見調査
6. 事業成果と自己評価
成果物③: 論文:「日本画における女性の自己表象についての考察-女性日本画家の自画像からみるフェミニズムの受容」(芸術学研究会『芸術学論集』2 号 2021 年 12 月に出版予定)
本研究の目的は、女性日本画家の自画像の制作背景を整理し、画家が残した言葉と対照することを通して、女性日本画家の自画像がフェミニズムの思想を反映する表象の一つであることを提示することである。申請者は、作品の実見調査を通して、7 点の自画像の画中の人物の視線を考察した。その中で、梶原緋佐子の《静閑》と北澤映月の《好日》の画中の人物は共に、人物の視線を鑑賞者と交わさない。この 2 作は、自律した画家が、制作に没頭するような空間を描いた作品である。一方、伊藤小坡の《製作の前》と《夏》は、美人

画の形式を受容した自画像だと考えている。伊藤小坡は本来、男性中心の絵画組織や学校で制作が推奨された「歴史画」を描き続けてきたが、恩師の助言を受け、自画像に転向したことが分かった。当時、男性が主導していた画壇は、女性に対しては、女性らしい主題があると考えられる。

また、島成園の《無題》と《自画像》は、鑑賞者を見つめ返すような表現となり、鑑賞者の視線と対抗しているように見える。こうした視線は近代日本画の女性像において希有であり、日本の絵画の中で直視する視線のほとんどは仏像のような尊像であった。これは直視する視線が強いメッセージ性と公的、権威的な意味を持つことに因る。島成園自身の言説に基づいて、これらの自画像が、最もフェミニズムを反映する作品とを推察した。

成果物①:筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻 芸術学特別演習ⅡA に口頭発表した「女性画家の自己表象についての考察－伊藤小坡の《製作の前》と《夏》を中心に－」

成果物④:筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻 芸術学特別演習ⅡB に口頭発表した「女性日本画家の自己表象についての考察-女性日本画家が描いた歴史画を中心に-」

投稿論文の研究対象の一人・伊藤小坡(1877-1968)に着目し、彼女の画業を調査した。小坡は《製作の前》という自画像からはじめ、大正時代に様々な自画像を制作した一方、画業初期の明治時代後期と最後の昭和期代に、主に歴史的な主題の作品いわゆる「歴史画」を描いた。自画像は自己を反映するという目的があると考えられるのに、歴史画は国家主義という社会背景に成立し、「国威宣揚」と「国民国家」という目的があると考えられる。こうした異なった制作目的の自画像と歴史画は、小坡の画業の中に、どのように位置付けられるのかを調査する研究である。

成果物⑤:自画像をモチーフとした作品を制作し、入選した公募展の図録のコピー及び作品の全貌図

申請者は、研究を行うと同時に、自画像を主要なモチーフとした日本画作品を制作している。提出した成果物は、日本画三大画壇と言われる「創画会」での入選作《平和主義》(162.0×162.0 cm)を掲載した図録のコピーである。本作は、2021年10月24日から30日まで、東京上野の東京都美術館で展示された。本作は、申請者が2019年母国である台湾の大統領選挙からの思いを表現した一枚である。女性である自分は、家族内で自身の意見などを言うことが許されない立場である。家庭内の平和を保つためによく沈黙を選んだことと、家庭外で度々絵、論文を通して自身の考え方を表わすことの矛盾を表現した。

7. 提出成果物

成果物①:筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻 芸術学特別演習ⅡA に口頭発表した「女性画家の自己表象についての考察－伊藤小坡の《製作の前》と《夏》を中心に－」のレジュメ

成果物②:論文の採用通知書

成果物③:論文:「日本画における女性の自己表象についての考察－女性日本画家の自画像からみるフェミニズムの受容」の全ページ(芸術学研究会『芸術学論集』2号 2021年12月に出版予定)

成果物④:筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻 芸術学特別演習ⅡB に口頭発表した「女性日本画家の自己表象についての考察-女性日本画家が描いた歴史画を中心に-」のレジュメ

成果物⑤:自画像をモチーフとした作品を制作し、入選した公募展の図録のコピー